

進路

高等部を卒業する生徒の約85%は、青山学院大学へ進学しています。その他専攻分野などの関係で他の大学を受験する生徒が約15%おります。内部進学は、高等部3年間の学業成績、3年次に行われる学力テストの結果その他を総合的に判断して推薦が行われ、大学側の決定を経て、入学が認められています。



青山学院大学への進学				2026年	2025年	2024年
青山学院大学	文学部	英米文学科	10	12	12	
		フランス文学科	0	1	1	
		日本文学科	6	3	7	
		史学科	0	6	1	
		比較芸術学科	15	13	17	
		教育人間科学部	教育学科	15	15	15
		心理学科	12	13	10	
	経済学部	経済学科	30	47	25	
		現代経済デザイン学科	7	5	9	
	法学部	法学科	23	18	22	
		ヒューマンライツ学科	7	4	2	
	経営学部	経営学科	53	53	53	
		マーケティング学科	32	32	32	
	国際政治経済学部	国際政治学科	23	23	23	
		国際経済学科	23	23	23	
		国際コミュニケーション学科	14	14	14	
	総合文化政策学部	総合文化政策学科	47	47	47	
	理工学部	物理科学科	0	0	2	
		数理サイエンス学科	2	0	0	
		化学・生命科学科	1	4	3	
		電気電子工学科	0	3	3	
機械創造工学科		3	0	5		
経営システム工学科		3	0	2		
情報テクノロジー学科		6	3	9		
社会情報学部		社会情報学科	8	1	5	
地球社会共生学部	地球社会共生学科	0	1	3		
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学科	1	0	0		
	計	341	341	345		
外部大学・その他		54	58	56		
卒業生総数		395	399	401		

生徒在籍数				
	ホームルーム数	男子	女子	計
第1学年	10	190	221	401
第2学年	10	176	211	387
第3学年	10	184	197	381
総計	30	550	619	1169

(2026年4月現在)

他大学合格者					
	学校名	2026年	2025年	2024年	
国公立大学	お茶の水女子大学	0	0	1	
	群馬大学	1	0	0	
	東京大学	0	3	1	
	東京外国語大学	0	0	1	
	東京科学大学	2	0	1	
	東京学芸大学	0	0	1	
	東京藝術大学	1	1	0	
	一橋大学	0	1	0	
	北海道大学	1	0	0	
	文科省外大	防衛大学校	0	1	1
		防衛医科大学校	0	1	0
私立大学	愛知医科大学	1	1	0	
	岩手医科大学	1	2	1	
	金沢医科大学	0	0	1	
	北里大学	2	2	3	
	慶應義塾大学	25	22	25	
	国際医療福祉大学	1	0	2	
	国際基督教大学	0	2	0	
	埼玉医科大学	1	0	1	
	芝浦工業大学	9	1	1	
	上智大学	7	4	8	
	聖マリアンナ医科大学	1	1	3	
	多摩美術大学	3	2	1	
	中央大学	8	2	6	
	東京医科大学	3	1	1	
	東京音楽大学	0	1	0	
	東京歯科大学	0	1	0	
	東京慈恵会医科大学	0	1	1	
	東京女子医科大学	3	0	1	
	東京薬科大学	1	0	1	
	東京理科大学	10	1	7	
同志社大学	1	0	0		
東邦大学	2	0	2		
獨協医科大学	1	1	0		
日本医科大学	2	0	2		
日本歯科大学	2	1	0		
法政大学	2	2	5		
武蔵野美術大学	2	0	1		
明治大学	10	6	13		
明治薬科大学	1	1	1		
立教大学	9	6	5		
立命館大学	1	2	0		
立命館アジア太平洋大学	0	1	0		
早稲田大学	8	15	9		
その他の私立大学	61	37	36		
外国の大学		3	17	13	

(2026年4月現在)
(国公立50音順 過年度卒業生を含む)

実社会を学んだ高等部 今の仕事につながる原体験があります

Yaffle さん
音楽プロデューサー、作曲家、アーティスト

Profile
本名:小島裕規。2010年に高等部を卒業し、国立音楽大学に進学。現在はアーティストYaffleとして音楽プロダクションprodz代表を務める。藤井風や米津玄師、iri、大森元貴、SIRUP、SEKAI NO OWARI、AIなど多くのアーティストのプロデューサーやアレンジを担当。国内外で高い評価を受けつつも注目される音楽プロデューサーのひとり。映像音楽でも確かな実績を築いており、「爆弾」(25)ではアカデミー賞優秀音楽賞を受賞。そのほか「変な家」(23)、「ブルーピリオド」(24)、「楓」(25)も担当した。

僕にとって高等部は主体的に進路を選び、いまにつながる方向性を見定めたところ。当時を振り返って残っているのは、物事が生徒主体で転がっていく「小さな社会」のような場所だったという感覚です。一度も企業に就職することなく仕事をしているので、社会にはいろいろな立場の人がいて、多様な個性や価値観とどうやって折り合いをつけていくのかを学んだのは高等部時代です。

特に覚えているのが生徒会長選挙。ふざけた候補しか立候補しなかったことで再選挙になり、途中から「まともそうな候補」が追加されるという、生々しい政治のプロセスを目の当たりにしました。ふざけた候補には生徒たちがちゃんと白票を投じてNGを出すこと、そして最終的には自浄作用が働いて落ち着くところに落ち着いたこと、「社会ってこうやって動くんだ」という社会の縮図を見た気持ちでした。修学旅行で遅刻者が出た際も、先生ではなく生徒が当事者に「謝り方が足りない」と謝罪を求め続けたことがありました。傍で見ていた僕は、人に迷惑を掛けたら心を込めて大きな声で謝ることの大切さを学びました(笑)。

友人に誘われて入部した吹奏楽部では、いろいろな個性をオーガナイズする楽しさを知りました。僕はピアノしか経験がなかったけれど、吹奏楽は団体種目。多くの人の個性を見極め最適な状態へと整えていくのは、いまに繋がる体験です。アカペラの曲をハーモナイズしてオーケストラ曲に仕上げ、大勢の人の前で演奏された時は本当に気持ちよかったですね。部室が隣だった軽音楽部にも参加し、オリジナル曲をやるバンドを作ったのも原初体験です。そのときからパフォーマーとして活躍するよりオーガナイズして全体を設計していくことが得意だし、この道で行けそうだと自信を持ちました。

高等部は全員が一律で偏差値を上げていい大学を目指すような学校ではないので「かくあるべし」という感じはありません。決められたルールに乗っかるのではなく自分でいろいろ試して、人に揉まれて、怒られる限界を見つける経験もいと思います。実際に社会に出てから生きてくるのはそういうコミュニケーションスキルだと思いますよ。



MESSAGE

卒業生メッセージ



困難な裁判でも「大切な経験」として 感謝する心を育ててくれた高等部

平埴 優佳 さん
東京地方裁判所 判事補

Profile
高等部を2014年に卒業。在学中はハンドボール部に所属していた。青山学院大学法学部法学科に進学。慶應義塾大学大学院法学研究科修了。司法修習生として1年間、沖縄で法曹三者の業務を経験し、先輩たちの朗らかさに惹かれて裁判官の道を選択し現在に至る。

私が法曹界を目指したのは、初等部時代、自由研究の一環で裁判所を見学し、女性の裁判官が格好良く働く姿を目にしたから。ハンドボール部やバンド活動に熱中した高等部でしたが、法曹を志す気持ちは変わらず、青山学院大学法学部に進学しました。

人生で最も緊張したのは司法試験の日です。それまで試験の合格が将来を決定するという経験をしてこなかった私ですから、試験会場に着くと手が震え、嘔吐感さえ感じていました。そのとき思わず唱えたのは主の祈りでした。幼稚園の頃は意味も分からず唱えていた文字の羅列は、いつの間にか私の心に御言葉として刻まれており、試験前の祈りは私に平静をもたらしてくれました。

人を裁く立場となった今、指針としているのは聖句です。テサロニケの「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」という言葉は、シンプルだけど大切なこと。判断の難しい事件もあるけれど、それは自分を成長させてくれる一つの経験だと感謝すべきものです。裁判官になるために私を支えてくれた家族がいて、日々の大変な仕事を楽しく取り組ませてくださる先輩方がいます。青学の同級生に弁護士と検察官になった人がいて、法曹三者と友人として会えるのも恵まれています。今ここに立っているのは、私一人の力ではありません。決して驕らず、罪を犯した人であっても、一人の人間として真摯に向き合うことを常に心がけています。

高等部には自然発生的有志団体がいくつもありません。部活動としてではなく、個々人が自由に組んだバンドが沢山あり、文化祭ではオーディションで選ばれたグループのみが演奏できました。また、ミュージックフェスティバルという演奏会もあり、この行事も先輩方が先生と折衝して始まったと聞いています。自分のやりたいことを筋道を立てて先生に説明すれば、必ず実現できる学校でした。裁判員裁判では、裁判官と裁判員が密に意見交換しながら考えを深めていくのですが、社会で出会う人々との「繋がり」は高等部で学んだことです。